

タイトル	現代中国の環境論（9） - 「人と自然の調和と共生を堅持し、生態環境保護を推し進める」（2023） -
著者	庄，貴陽；Zhuang，Guiyang；鈴木，光；SUZUKI，Hikaru
引用	北海学園大学法学研究，60(3)：179-194
発行日	2024-12-30

資料

現代中国の環境論 (九)

——「人と自然の調和と共生を堅持し、

生態環境保護を推し進める」(二〇一三)——

中国社会科学院生態文明研究所 副所長 庄 貴 陽 (Zhuang Guiyang) 著

鈴木 光 (Suzuki Hikaru) 訳

人と自然が調和し共生する近代化を成し遂げることは、中国式近代化の核心的特徴かつ本質的条件の一つである。中国共産党第二十回全国代表大会(訳注1)報告書は、新たな時代の新たな道において、人と自然が調和し共生する美しい中国を建設することに関する戦略的計画と施策を作り上げ、生態環境保護に対する新たな要請を行った。

一 中国共産党第十八回全国代表大会(訳注2)以来、生態環境保護は成果を収めた

中国共産党第十八回全国代表大会以来、我が国の生態環境保護は歴史的、転換的、全面的な変化を遂げ、美しい中国の建設は重要な一步を踏み出し、生態環境管理の面で明らかな成果を収め、一般大衆の達成感が増幅され、環境配慮型の発

展の質が一層向上し、「その」地球全体の生態環境への貢献は人々の注目を集めている。

資 清らかな水と緑豊かな山はそれ自体が金山・銀山であるとの理念（緑水青山就是金山银山理念）（訳注3）が人々の心に深く染み入り、普遍的な共通認識および行動上の自覚となった。中国共産党中央委員会は、中国共産党第十八回全国代表大会以来、生態文明の建設を、「五位一体」総合配置（訳注4）を統一的な計画を立て推進することと「四つの全面」戦略的配置（訳注5）を調和的に推進することの重要な内容に据え、生態文明理論の創造、実践の創造、制度の創造を大々的に推し進め、思想、法律、体制、組織、方法の面で最大限に活用し、生態環境の質が量的変化から質的变化に至るよう改善すべく全力を挙げて推進してきた。良好な生態環境は人民の生活上最も普恵な幸であり、一般大衆にとり幸せな不動産である。清らかな水と緑豊かな山はそれ自体が金山・銀山であるとの理念は、浙江省安吉県のある小さな山村で誕生し全国へ広まり、発展と保護の弁証法的統一関係を深く示唆し、習近平の生態文明思想の重要な構成部分となり、中国共産党全体と社会全体の共通認識および行動の手引きとなり、人と自然の関係についてのマルクス主義思想を現代化

し中国化した。生態環境部（訳注6）は、相次ぎ六度にわたり、合計四六八箇所の国家生態文明模範区（国家生态文明示范区）と一八七箇所の「清らかな水と緑豊かな山はそれ自体が金山・銀山である」（との理念）の実践創造基地（緑水青山就是金山银山、実践創新基地）を組織・命名し、各地が発展しつつ保護し、保護しつつ発展するよう誘導し、発展と環境が互いに協調した質の高い経済発展という新たな道を積極的に探求してきた。

山地・水域・森林・農地・湿地・草地・砂漠地（山水林田湖草沙）の一体的保護と系統的管理を行い、生態安全の障壁をさらに堅固なものとした。山地・水域・森林・農地・湿地・草地・砂漠地を統一的な計画を立てて系統的に管理し、生態系統の全体性、系統性、およびそれに内在する発展法則を深く示唆し、全方向、全地域、全過程において生態環境保護を強化するための方法論的指導を提供した。我が国は、中国共産党第十八回全国代表大会以来、系統的工程と全体的局面の角度から新たな生態環境管理の道を探求し、一連の国土空間総合再整備および生態修復工程を推し進め、国土面積の二五パーセント以上を生態保護（地域）の境界線内に納め入れ、我が国の生態安全の障壁を有効で強固なものにした。二

五箇所の山地・水域・森林・農地・湿地・草地の生態保護修復工程実験を一步一步着実に推進し、三五箇所の生物多様性保護優先区域を画定し、生物多様性保護重大工程と絶滅危惧種救出工程を実施し、一二種の特別希少絶滅危惧野生動植物の野外復帰を実現した。我が国は、二〇一七年より、「緑盾」特定項目行動の推進を継続しており、自然保護地の生態環境を不法に侵害し破壊する違法行為や規定違反行為を厳しく処分し、問題の整頓・改善および生態修復の督促を続けている（訳注7）。長江流域の重点水域では、二〇二一年一月一日以来、「ともに大いなる保護をつかみ取り、大規模な開発は行わない」（共抓大保护、不搞大开发）との全体的指導方針を背景に、十年間の禁漁を実施している。ここ十年来、累計で九・六億亩（訳注8）の造林が完成したが、これは地球全体で新たに増加した森林面積の四分の一に貢献するものである。森林面積と森林蓄積量は「共に増加する状態」を連続して維持しており、人工林面積は不動の世界第一位を誇る。

汚染防除の難関突破を奥深く推進し、一般大衆の達成感と幸福感が顕著に高まった。良好な生態環境は人民の生活上最も普遍的な幸であり、新たな時代の一般大衆があこがれる幸

せな生活の重要な内容でもある。ここ十年来、人民の生活に関連するとくに甚だしい生態環境問題に直面し、断固として汚染と戦うことを宣言し、青い空、清らかな水、汚れない土を守る戦いに全力で挑み、重度の大気汚染、深刻な水質汚濁、飲料水の安全、廃棄物に埋もれた街、農村環境など、一般大衆の心痛や憂いはすでに大幅に軽減され、広範な一般大衆の良好な生態環境に対する達成感は顕著に高まった。空は青く、山は緑豊かで、土地に汚れはなく、水は清らかであり、毎年の全国生態環境公報（訳注9）のデータは、我が国の生態環境状態が絶え間なく変化してきた事実を記録している。国家统计局の調査統計によると、一般大衆の生態環境に対する満足度は九〇パーセントを超えた。大衆の満足の鍵は身の回りの生態環境の質の向上にあり、たとえば、かつて長きにわたり陰ながら批判されてきた全国の大気の質の指標、すなわち微小粒子状物質（PM_{2.5}）の平均濃度は、二〇二一年に歴史的な下降を遂げ、一立法メートル当たり三〇マイクログラムとなり、世界保健機関が定める暫定的目標値一（一立方メートル当たり三五マイクログラム）を達成した。中央による生態環境保護の監督・視察は、重大かつ典型的な事件を取り調べて処理することにより、中国共産党と国家が

料 生態環境を管理するという揺るがぬ決意を一般大衆に示した。

資 環境配慮型、循環型、低炭素型の発展がしつかりした一歩を踏み出し、質の高い発展の質がさらに向上した。健全かつ環境配慮型、低炭素型、循環型の経済発展体系を作り上げ、経済社会の発展を全面的に環境配慮型へと転換するよう促進することは、我が国の生態環境問題を解決する基本的な策である。ここ十年来、生態環境保護を先導、適正化、強制する作用を効果的に発揮し、産業構造、エネルギー構造、交通運輸構造、用地構造の調整を加速度的に推進し、国土空間開発の枠組みを適正化し、資源の節約と集約的利用を促進した。我が国では、二〇一二年から二〇二一年まで、年平均三パーセントのエネルギー消費が年平均六・六パーセントの経済成長を支え、一次エネルギーの消費に占める石炭の割合も六八・五パーセントから五六パーセントへと下がり、エネルギー強度は累計で二六・四パーセント減少し、単位GDP当たりの二酸化炭素排出量は三四・四パーセント減少し、二酸化炭素排出量が急激に増加していた局面を是正し、エネルギー消費と経済成長の関係、およびエネルギー消費と炭素排出の関係を断つことに一応成功した。我が国は、二〇三〇年

より前に炭素〔の排出量〕を頂点に到達させ、二〇六〇年より前に炭素中和〔炭素中立、カーボンニュートラル〕を実現することを承諾し、地球全体を環境配慮型、低炭素型へと転換する決意を固め、生態文明の全体的配置の下で、汚染減少と炭素削減の相乗効果を強めることにより、経済社会の発展を全面的に環境配慮型へと転換することを促進する。我が国の再生可能エネルギー発電設備の規模は世界第一位であり、新エネルギー車（訳注10）の生産販売量は不動の世界第一位を誇る。環境配慮型、低炭素型の産業は今まさに加速度的に成長しており、日増しに質の高い発展を促す新たな潜在力となりつつある。

二 生態環境保護が直面する挑戦と圧力

美しい中国とは、人と自然が調和し共生する現代化の検査の標識であり、二〇三五年に基本的に実現する現代化の目標の一つである。人と自然が調和し共生する高度に計画的な発展において、生態環境保護が内包するものとその概念の及ぶ範囲は絶えず深化しており、〔それに対する〕挑戦と圧力も極めて大きい。

第一に、経済情勢が緊迫し複雑化しており、短期目標と長期目標を統一的に計画することがますます難しくなっている。工業化と都市化が一層拡大する段階にあつて、我が国の産業構造、エネルギー構造、及び運輸構造における高エネルギー消費・高排出という特徴は根本的に変化しておらず、汚染排出と生態破壊の情勢は依然として緊迫しており、新たな汚染物質が人体の健康に与える影響と生態に及ぼす危険が日に日に露呈し、生態環境〔関連の〕事件が依然として多発・頻発する高度に危険な状態と趨勢にあり、環境配慮型の生産生活様式はまだ全く形成されていない。我が国のエネルギー消費水準は常に向上しているが、なお世界平均水準の四〇パーセントを上回っており、これは先進国の二―三倍であり、エネルギー資源の利用効率が低めである。我が国の一人当たりのエネルギー消費水準は、経済協力開発機構（OECD）加盟国の約六三パーセントにすぎず、立派な生活（美好生活）を送るために必要なエネルギーサービスの需要に応じることと炭素削減との間の矛盾が際立っており、炭素（の排出量）を頂点に到達させ炭素を中和させる任務の実現は、はなはだ困難である。目下、経済の進行は、需要の縮小、供給の押し寄せ、および期待の弱まりという「三重の圧力」に直

面しているうえ、ロシアとウクライナの衝突、異常気象、および新型コロナウイルス感染症が重なることによる影響も受けており、これらの特徴は、発展様式の転換、経済構造の適正化、および成長原動力の転換という「三つの時期の重なり」（三期叠加）という背景の下に現れており、経済成長の制約条件が累積していることを意味し、空間利用が狭くなり、取舍を判断し最適解を求めることが一層困難となっている。経済の downward 圧力が強まり、発展への信頼を向上させることがますます困難な情勢の下で、一部の地区では成長の安定と雇用の保持を求める圧力が劇増し、「環境保護は経済に〔悪い〕影響を与える」との論調が社会にしばしば現れ、経済が downward となった「背鍋侠」〔責任を転嫁するための身代わり、スケープゴート〕を探している。ある地域では、人民の生活を守る財政的圧力を受け、生態環境保護重視の程度が弱まり、それにそそぐ力の程度も小さくなった。また一部の地域では、質の高い経済発展のための創造力を欠き、感染症がもたらした損失を取り戻すには手っ取り早く儲かる「二高」（两高）事業（訳注11）を増やし余剰生産能力へ投資することで牽引しようと考えているが、このように目前の困難のみを考慮するのは、将来、国家経済と地方経済に残す可

料 能性のある産業構造を立て直す手間や歴史的負担を軽視することになる。

資 第二に、汚染防除という難関突破戦をしつかり戦い抜き、

難関に挑み困難に打ち勝つ鍵となる段階に入った。「三つの時期の重なり」は、生態環境をしつかり固めつつ良い方向へ向かわせるための基礎がまだ安定していないことを意味する。全体的に見ると、我が国の工業化と都市化の歴史的任務は依然として完成しておらず、産業構造とエネルギー構造に対応した資源エネルギーの生産とその消費における汚染物質の排出はまだしばらく高止まりするであろう。目下のところ大気環境の成果は安定しておらず、水生態の回復事業は始まったばかりであり、土壌汚染の歴史的残留問題はとくに甚だしく、環境向上の程度はまだ全体的に中低級であり、美しい中国を建設する目標と比べると依然として大きな開きがある。汚染防除という難関突破戦をしつかり戦い抜くことは、汚染防除が深水域に及ぶことを意味する。近年、生物毒性、環境残留性、生物蓄積〔濃縮〕性などの特徴を備えた新たな汚染物質が頻繁に発生する特徴が見られる。二酸化硫黄〔亜硫酸ガス、無水亜硫酸〕や窒素酸化物などの伝統的な汚染物質に比べ、残留性のある有機汚染物質、内分泌攪乱物質、抗

生物質、マイクロプラスチック等の新たな汚染物質が有する残留性、蓄積〔濃縮〕性、移動性等の特徴はより明らかであり、それらは環境の中に長く残留するため、伝統的な汚染物質よりもはるかに管理が難しい。問題は一層複雑となり、その難度と困難さは未曾有である。製薬、化学工業、製紙等の危険性の高い業界や企業の多くは、沿岸地帯、川沿い、海沿いの地域に位置しており、ひとたび突発的な環境事件が発生すると、流域の水環境に深刻な影響を及ぼし、飲用水の安全を脅かしかねない。このほか、生態環境の管理は、もはや単一目標の管理モデルではなく、汚染減少と炭素削減相互の相乗効果を統一的に計画した多目的共同管理であり、「手抜かりのない徹底した」（横向往、縦向往底）、生態環境を総合的に修復する枠組みを作り上げる。縦方向においては、伝統的な汚染物質の防除および都市汚染管理の分野ですでに現れている管理上の成果を強固にし、横方向においては、新たな汚染物質の管理と農村の生態環境改善の分野へと範囲を拡張し、「持久戦」を行う準備を整え、難関に挑み困難に打ち勝つて初めて、真に環境の質を改善し、美しい中国を建設することができる。

第三に、生態環境の管理能力が不足しており、生態環境の

質を持続的に改善するという需要を満足するのが難しい。生態文明の建設とは、単に環境に基づき環境問題を解決することでは決してなく、新たな文明観の指導の下で、生産生活様式と社会発展様式を系統的に改革することである。我が国の生態環境管理体系と管理能力近代化の建設は大幅な進展を遂げたが、なお全体の発展を制約する部分や不十分な点が少なからず存在しており、制度建設においてはまだ、バラバラである、分散している、部門に分かれているといった現象が見られ、生態環境に関する法律体系にはいまだ全面的配慮が欠けており、多元的管理の枠組みが真に形成されたとは言えない。経済社会を全面的に環境配慮型へと転換するには、国家と社会の管理体系を全面的に変える必要があり、それには環境配慮型の発展を促進する政策体系、標準体系、市場体系、および技術体系が含まれる。実践面では、生態環境管理の問題において、行政手段の運用を強調しすぎており、一般大衆と社会組織が参画するための構造と制度がまだ完備されていない。生態環境に関する法律体系はさらなる完備が必要であり、標準の制定が相対的に足踏み状態に陥っているところもあり、生態環境の基盤となる組織が最大の弱点になっていることが明らかで、生態環境の質を持続的に改善する必要

を満足させていない。一部の生態環境問題の発生要因、仕組み、時間と空間、およびそれに内在する変遷法則の研究はまだ浅く、精密な対策を取り環境汚染を抑えること、科学的な対策を取り環境汚染を抑えること、法に照らして対策を取り環境汚染を抑えることが、申し分なく着実に遂行されているとは言えない。近年、生態環境保護に関する法執行力の程度が絶え間なく増大するにつれ、とりわけ中央による環境保護の監督・視察および大気汚染防除強化のための監督・点検など、様々な項目の法の執行活動が繰り返されるに伴い、一部の地方政府は「まず確立してから廃止する。確立せずして廃止せず」（先立后破、不立不破）（訳注12）の求めを着実に遂行せず、「多様な問題を単純・一律に処理」したり、「政治的宣伝活動（コネを頼って工作する）様式」により炭素を削減するなど、無責任な管理手段を用いており、国家の汚染防除活動に対する反発気分を社会に芽生えさせ、極めて好ましからざる社会的影響をもたらしている。近年、安全生産や化学品輸送などに起因する思いがけない環境事件が頻繁に発生し、突発的な感染症や災害の発生状況、および異常気象の常態化が生態環境処置の負担となっており、環境上の危険を前もって警告し予防・規制する体制はいまだ整備されて

三 人と自然が調和し共生するという要求のもとで、生態環境保護を推し進める

我が国は、社会主義的な近代国家を全面的に建設する新たな長旅の道程につき、炭素削減を主要な全体的指導指針目標とする生態文明建設の要の時期に入った。中国共産党第二十回全国代表大会報告書と中央経済工作会议は、経済社会の発展を環境配慮型へと転換するよう促し、炭素削減、汚染減少、緑地拡大、および成長を共同で推し進め、美しい中国を建設しなければならない、と明確に打ち出した。

第一に、発展様式の環境配慮型への転換を速める。生産生活様式の環境配慮化・低炭素化は、人類社会の持続可能な発展のための根本的要求かつ必然的趨勢である。環境配慮型の消費と供給側の構造改革を互いに結びつけるよう唱え導き、環境配慮型・低炭素型の生産様式と生活様式の形成を促進し、環境配慮型の成長の割合を増やす。

第二に、環境汚染防止の難関に挑み困難に打ち勝つことを深く掘り下げて推し進める。青い空、清らかな水、汚れのな

い土を守る戦いを引き続き深く戦い抜き、美しい中国を建設する目標を堅く変えず、力の程度を決して緩めず、その深さと範囲の点でさらに時間と精力をかけ、都市と農村における人類の生存に適した環境の継続的改善を推し進め、近代的な環境管理体系を整備する。

第三に、生態系統の多様性、安定性、持続性を向上させる。重要な生態系統を保護・修復する重大計画と生物多様性保護重大計画の実施速度を速め、生態系統の自己修復能力を高め、自然に基づく解決計画を生態保護修復活動の主流とし、自然の恩に報い、自然の価値を高めることを実現する。

第四に、炭素〔の排出量〕を頂点に到達させ炭素を中和させることを積極的かつ穩当に推し進める。「双炭」（双碳）（訳注13）活動の全過程に系統的觀念を貫かせ、発展と排出減少、全体と部分、長期目標と短期目標、および政府と市場の関係を正確に処理し、エネルギー消費の「二重制御」から炭素排出の「二重制御」への転換を促し、炭素〔の排出量〕を頂点に到達させ炭素を中和させることを積極的かつ穩当に推し進める。

当面と今後のある時期は、安定を最優先し、安定しつつ前進することを堅持し、生態環境保護活動を经济社会発展の全

体的情勢の中へ能動的に組み込み、環境経済の整体的情勢を正確に把握し、経済の整体的情勢を安定させるよう積極的に奉仕し、経済発展と環境保護が協力して共に前進するよう努力する必要がある。

習近平の生態文明思想を手引きとすることを堅持し、環境配慮型の発展の決意をしっかりと定める。中国共産党第二十回全国代表大会は、世界に対し、「双炭」活動を継続的に推進する戦略的決意と固い決意があること、同時に「双炭」活動と「生態環境の根本的な好転の実現」を統一・協同させ、目標を変えず、力の程度を緩めないことを明確に伝えた。指導思想においては、「双炭」と生態環境保護活動を、「社会主義的な近代強国を全面的に建設する」という全体目標と一致させなければならない。環境配慮型の発展は、生態環境問題を解決する根本的な策であり、環境配慮型の発展様式と生活様式の形成の促進をより際立たせ、「清らかな水と緑豊かな山はそれ自体が金山・銀山である」との意識を絶えず強化し、人と自然が調和し共生する高度に計画的な発展という立場に立ち、生態を優先し環境配慮型・低炭素型の質の高い発展を目指す道を堅く変えず、汚染減少と炭素削減相互の相乗効果の実現を、経済社会発展を全面的に環境配慮型へと転換

するよう促進する全体的な着手点（总抓手）とすることを堅持し、生産空間の集約と高効率化、生活空間の適度な住みやすさ、そして生態空間の山水の風景が優れていることを促進し、清潔・低炭素・安全・高効率な新たなエネルギー体系を打ち立てることに尽力し、質の高い発展のために環境配慮型の強大な発展エネルギーを注ぎ込まなくてはならない。

安定の中に前進を求める活動基調を保ち、長期目標と短期目標を統一的に計画し、それらに同時に注意を向ける。汚染防除の難関突破戦における各種の活動を、経済社会発展の整体的情勢の中に組み入れて考慮し、生態環境保護、経済社会の発展、および人民生活の保障の関係を完全に処理し、多元的目標の中で動態バランスを保ち、経済安定化の目標に奉仕する。長期目標のために現状を顧みないことや、目先の困難を理由に将来の理想を放棄することは許されず、長期目標の短期化と系統的目標の細分化はいずれもしてはならず、感染症の予防と制御、経済社会の発展、および生態環境保護の各種の活動について計画的に順序を立てて統一計画を定め、生態環境安全のための最低水準を堅く守り、環境配慮型・低炭素型への転換という要求を経済安定化政策目標の中に組み込む。投資・消費・輸出から成る「三頭立ての馬車」に、環境

配慮型・低炭素型かつ持続可能な発展という内容を十分に与え、短期的成長目標と長期的生態環境福祉の両方に同時に注意を向け、経済社会の持続可能な発展能力を高める。法と規則に照らして各種の活動を推し進め、環境上の顕著な違法行為は厳しく罰し、容赦しない。「二〇三〇年より前に炭素〔の排出量〕を頂点に到達させる行動計画」を積極的に実行し、「二高」事業のやみくもな発展を断固として抑制し、重大な建設事業における生態環境と炭素排出の門を厳格に守る。生態系統の保護と修復の監督管理を強力に推し進め、生態環境上の危険の予防と規制および緊急事件の処理を適切に行う。異常気象事件における社会全体の対応能力と適応能力を高め、気候〔変動〕に対する可鍛性を向上させる。

新たな様式と方法を作り出し、生態環境保護の管理能力と管理水準を絶えず向上させる。目標の方向と問題の方向を堅持し、「標尺に照らして〔自らの〕不足を見極め、上級目標に照らして〔自らの思想や行動を〕正しく実行」し（対标対表）、足りないところを弁別し、原因を分析し、科学的な策を講じ、体制構造、政策措置、責任遂行に力を注ぎ、「点」から「面」へ、管理能力と管理水準の全体的向上を推し進める。生態環境保護の管理体制の改革を深め、これまでのおも

に行政手段に依拠した方法を変え、行政、法律、経済的手段を総合的に運用し、生態文明建設の体制、構造、および制度体系を整備する。法による行政、法による管理、および法による保護を着実に成し遂げ、生態環境保護の法律上の最低条件を断固として守り抜く。有為な政府作用と効果的な市場作用を発揮させ、市場化・法治化の手段を十分に運用し、生態環境の質の持続的改善を推し進める。「中国共産党と中国政府が共同で責任を負う」（党政同責）〔という原則〕と「一職二重責任」（一岗双責）〔という原則〕（訳注14）を堅持し、政府による管理、社会における調節、および企業自治の良好な相互作用を推し進める。様々な主体による共同管理（多方共治）を堅持し、政府、企業、一般大衆など各主体の作用を充分に発揮させ、情報共有、様々な主体による共同樹立、協調協力、みんなで協力して一つのことをする、を内容とする連動的な活動構造を打ち立て、全社会が共同して生態環境管理を推進し、「共に建設し、共に管理し、共に享有する」（共建共治共享）良好な枠組みを形成する。

（著者は中国社会科学院生态文明研究所の副所長、かつ研究員である。）

訳注

訳注1 中国共産党第二十回全国代表大会は、二〇二二年十月十六日から二十二日まで、北京市の人民大会堂にて開催された。

開催された。

訳注2 中国共産党第十八回全国代表大会は、二〇一二年十一月八日から十四日まで、北京市の人民大会堂にて開催された。

開催された。

訳注3 「绿水青山就是金山银山理念」は、中華人民共和国

主席かつ中国共産党中央委員会総書記である習近平氏が、二〇〇五年八月十五日、当時中国共産党浙江省委員会書記として浙江省安吉県余村を視察した際に初めて提唱した理念とされる。習近平国家主席は、視察の九日後、『浙江日報』二〇〇五年八月二十九日号第一面の「之江新語」欄に「哲欣」の筆名で「绿水青山也是金山银山」（清らかな水と緑豊かな山は金山・銀山でもある）と題する文章を掲載し、この理念についてつぎのように述べている。「我々は、人と自然の調和と、経済と社会の調和を追求している。これを分かちやすく言うと、清らかな水と緑豊かな山を求めるのみ

ならず、金山・銀山をも求めるということである。我が省には「七つの山、一つの水、二つの農地」があり、多くの地域は「青い川水がうねり曲がって流れ、緑豊かな山が向かい合って開き」、良好な生態優勢を有している。これらの生態環境優勢を、生態農業、生態工業、生態観光などの生態経済上の優勢に転化することができれば、清らかな水と緑豊かな山も金山・銀山に変化する。清らかな水と緑豊かな山は、金山・銀山をもたらしことができるが、金山・銀山をもって清らかな水と緑豊かな山を買うことはできない。清らかな水と緑豊かな山と金山・銀山は、矛盾を発生させもすれば、弁証法的に統一させることもできる。我々は、魚と熊の手を同時に入手することができない情況下では、機会費用を理解し、適切に選択し、放棄することを学び、すべきことはしっかりとやり、すべきではないことはせず、科学的発展観をしっかりと動揺せず実行し、人と自然が共に調和した資源節約型で環境に優しい社会を作り上げなくてはならない。選択の過程で正しい方向を見つけ、条件を作り出し、清らかな水と緑豊かな山が、後から後からと絶え間なく金山・銀

山をもたらしようにする。」哲欣、『绿水青山也是金山银山』、浙江日报二〇〇五年八月二四日头版、之江新語。央视网、习近平首次提出『两山论』、就在这个小村庄九天后、上观新闻、二〇一八年四月二十日、<https://www.shobserver.com/news/detail?id=86720> (二〇二四年十二月十日参照)。「绿水青山就是金山银山理念」は、「两山理论」または「两山论」と呼ばれることもある。

訳注 4 「五位一体」総合配置（『五位一体』总体布局）と

は、中国の特色ある社会主義事業の総合配置であり、おもに「経済建設、政治建设、文化建設、社会建設、生態文明建設」の五分野について統一的な計画を立て推進するものである。具体的には、中国の特色ある社会主義の新たな時代において、中国の特色ある社会主義建設事業は、経済建設を中心として、社会主義市場経済を發展させ、社会主義民主政治を發展させ、社会主義の先進的文化を發展させ、社会主義的な調和の取れた社会を構築し、社会主義的な生態文明を作り続けなければならないことを意味する。二〇一二年十一月、中国共産党第十八回全国代表大会は、中国の特色

ある社会主義事業の総合配置は「五位一体」であると初めて発表した。中国共産党第十九回全国代表大会は、このことをさらに明確にし、重ねて声明した。張麗青（責任編輯）、『五位一体』总体布局、中華人民共和國司法部（中国政府法制信息网）、二〇二二年二月十三日、https://www.moj.gov.cn/pub/sfgw/zwglkztzl/2021nzt/dsxxy20210506/dszl/dsbk/202203/t20220309_450161.html (二〇二四年十二月十日参照)。

訳注 5 「四つの全面」戦略的配置（『四个全面』战略布局）

とは、中国共産党中央委員会の習近平総書記が、中国共産党第十八回全国代表大会後に一步一步提唱してきた中国の發展のための戦略的配置であり、中国共産党が新たな情勢の下で国を治め国政を運営するための総合的な計画大綱である。二〇一四年十二月当初、習近平総書記が江蘇省における調査研究の際に初めて提唱したものは、まずまずのゆとりのある生活ができる社会を全面的に構築すること、改革を全面的に深化させること、法に基づく国の統治を全面的に進めること、および党の厳格な統治を全面的に推進すること、

の「四つの全面」（四个全面）が含まれていた。二〇一七年十月、中国共産党第十九回全国代表大会は、新たな時代における中国の特色ある社会主義事業の戦略的配置を「四つの全面」とすることを提議した。二〇二〇年十月末、中国共産党第十九回中央委員会第五回全体会議は、まずまずのゆとりのある生活ができる社会の全面的構築に決定的な進展が見られるようになったことを受け、「四つの全面」に関する新たな説明を発表し、「まずまずのゆとりのある生活ができる社会の全面的構築」を「社会主義的近代国家の全面的建設」へと調整した。張麗青（責任編輯）、《四个全面》、中華人民共和國司法部（中国政府法制信息网）、二〇二二年二月二十四日、https://www.moj.gov.cn/pub/sfbgw/zwgkztzl/2021nzt/dsxxjy20210506/dscl/dsbbk/202203/t20220309_450152.html（二〇二四年十二月十日参照）。

訳注 6 生態環境部とは、中華人民共和國國務院が管轄する部門の一つである。その責務は、生態環境に関する基本的な制度を確立・整備すること、および重大な生態環境問題について統一的に計画を立てて調整し監督・

管理することなどである。中華人民共和國生態環境部、《组织机构・生態環境部职责》、中華人民共和國生態環境部、更新日期未知、<https://www.mee.gov.cn/zjhb/>（二〇二四年十二月十日参照）。

訳注 7

二〇一七年七月十一日、中華人民共和國の環境保護部、国土資源部、水利部、農業部、国家林業局、中国科学院、国家海洋局は、各省、自治区、直轄市環境保護庁（局）、国土資源庁（局）、水利庁（局）、農業庁（局）、林業庁（局）、海洋庁（局）、中国科学院華南植物園に対し、「『緑盾二〇一七』国家級自然保護区における監督検査特定項目行動を共同して推し進めることに関する通知」（环生态函〔二〇一七〕一四四号）を発表した。本通知に添付された付属文書「『緑盾二〇一七』国家級自然保護区における監督検査特定項目行動計画」によると、その指導思想は、「生態文明の建設に関し中国共産党中央委員会と國務院が決定した策略と配置を深く徹底的に貫徹し、習近平総書記など中央指導者からの重要な指示の趣旨を真剣に実行し、政治の立ち位置を着実に向上させ、「四つの意識」（四个意识）をしっかりと確立し、思想と行

動を「两办通报」(「中国共产党中央事務局 國務院事務局による甘肅祁連山國家級自然保護区の生態環境問題の監督視察処理状況およびその教訓に関する通報」(中办发〔二〇一七〕一三号)を指す。)が求める」と固く一致させ、甘肅祁連山生態環境問題の教訓を深く吸収し、自然保護区に関連する各種の違法行為・規定違反行為を厳しく攻撃し、自然保護区における監督管理の強化を重要な政治責任とし、厳格に執行し、融通は利かせず、國家生態安全障壁をしっかり構築する。」とある。仕事の目標は、「問題の方向を際立たせ、全国四四六箇所の國家級自然保護区に存在する問題を全面的にしらみつぶしに調べ上げ、違法行為・規定違反行為を厳しく処分し、終始一貫して威圧的な態度を維持し、問題を発見した場合はしっかりと取り押さえ決して許さず、ひとたび捕まえばとことんまで行き、目的を達成するまで絶対にやめず、〔違反者を〕震え上がらせ、警告し、教育する機能を果たすこと。」と定められている。环境保护部、于联合开展「绿盾二〇一七」国家级自然保护区监督检查专项行动的通知(环生态函〔二〇一七〕一四四

号)、中华人民共和国生态环境部政府信息公开、二〇一七年七月十一日、https://www.mee.gov.cn/gkml/hbb/bh/201707/20170721_418304.htm (二〇二四年十二月十日参照)。

訳注 8 亩(mu)は土地面積の単位であり、一亩は六・六七アールである。文中の九・六億亩(約六四億アール)六四万平方キロメートル)は、日本の国土面積(約三七万八千平方キロメートル)のおよそ一・七倍に相当する。

訳注 9 原文は「全国生态环境公报」である。これは中華人民共和國生态环境部が毎年公表する「中国生态环境状况公报」を指すものと思われる。中华人民共和国生态环境部、中国生态环境状况公报、中华人民共和国生态环境部、二〇二四年六月五日、<https://www.mee.gov.cn/hjzl/shjzk/zghjzkgb/> (二〇二四年十二月十日参照)。

訳注 10 新エネルギー車とは、中国政府が普及を促す、非従来型の動力源を持つ自動車の総称である。新エネルギー車には、電気自動車、プラグインハイブリッドカー、燃料電池車、水素自動車などが含まれる。

訳注11 「二高事業」（两高項目）とは、高エネルギー消費・高排出の事業を指す。この用語が用いられた公文書の一例として、二〇二一年五月三十一日、中華人民共和国生態環境部が、各省、自治区、直轄市生態環境庁（局）、新疆生態建設兵团生態環境局に対して発した、「高エネルギー消費・高排出の建設事業における生態環境源泉の予防と規制の強化に関する指導意見」がある。同意見は、「環境に配慮した低炭素型の発展を加速度的に推進することに関する中国共産党第十九回中央委員会第五回全体会議の決定と施策を全面的に遂行するため、高エネルギー消費・高排出（以下「二高」（两高）と略称する。）事業のやみくもな発展を断固として抑制し、環境配慮型へと転換した質の高い発展を推進し、「二高」事業における生態環境源泉の予防と規制を強化するため」公布されたものである。

生態環境部、《关于加强高耗能、高排放建设项目生态环境源头防控的指导意见》（环环评〔二〇二一〕四五号）、中华人民共和国生态环境部政府信息公开、二〇二一年五月三十一日、https://www.mee.gov.cn/xxgk/2018/xxgk/xxgk03/202105/20210531_835511.html

（二〇二四年十二月十日参照）。

訳注12 「先立后破、不立不破」は、習近平総書記が中国共産党第十八回全国代表大会以来繰り返し強調している概念であり、まず新しい制度や構造をしつかり確立し、その後、新たな基盤に基づいて古いものを徐々に淘汰または改革すべきであるという考えを指す。

訳注13 「双炭」（双碳）とは、デュアルカーボンとも呼ばれ、炭素（の排出量）を頂点に到達させること（カーボンピークアウト）と炭素を中和させること（カーボンニュートラル）の両方を目指すものである。

訳注14 「一職二重責任」（一岗双责）とは、指導的幹部は、担当業務の責任を負うとともに、中国共産党の指導にも責任を負わなければならないという原則を指す。

訳者あとがき

本稿は、中国社会科学院生態文明研究所副所長・庄貴陽（庄贵阳 Zhuang Guiyang）「坚持人与自然和谐共生推进生态环境保护」（『中国共产党干部论坛』（中国共产党干部论坛）二〇二三年一月号、四二―四六頁）を、原著者と『中国

料 党政干部论坛』編集部のご承諾を得て試訳したものである。

文中の「」部分と訳注は訳者が挿入した。翻訳に際しては、曹維君 (Cao Weijun) 先生より貴重なご指導をいただいた。

資料収集にあたっては、東洋文庫図書部の篠崎陽子様、北海学園大学附属図書館レファレンス・サービス係の菅野伸樹様・佐野希美様に多大なお力添えをいただいた。心より感謝申し上げます。